

相愛女子短期大学生のペットとダイエットに関する意識

—2003年度「社会調査演習」企画・実施意識調査結果より—

益 田 圭^{注)}

問 題

今年度も人間関係学科2年生の専門教育科目である「社会調査演習」の授業では、受講者たちが興味を持ったテーマについて、調査を企画し、調査票を作成し、実際に調査データを集め、そのデータを集計・分析し、得られた結果について考察を行った。今年度は、受講生が43名と多かったこともあり、調査のテーマを2つ設定し、受講生はそれぞれ、どちらかのテーマを担当することとした。今年度の2つの調査テーマとは、「ペットに関する意識調査」と「ダイエットと食事と健康に関する意識調査」である。

近年、核家族化、少子化が進む社会状況において、ペットというものが家族の一員として見られることも多くなり、動物愛護ということも以前とは比較にならないほど一般に浸透しつつある。しかし、その一方で動物に対する虐待事件も後を絶たず、人々のペットに対する意識もかなり多様化していることが考えられる。受講生の中でも実際にペットを飼っている学生も多く、ペットや動物に関する進路を考える学生もいる。こうした状況の中で受講生たちが、同世代の「ペットに関する意識」を調査テーマとして選択することは無理がないことであろう。

一方、ダイエットという問題は、20才前後の学生にとって当然、非常に興味のある問題である。週刊誌、テレビなどのマスコミでは、ダイエットに関する話題を見ないことがないと言っても過言ではないほど、ダイエットに関する話題や商品広告が氾濫している。これと同時に、美肌や紫外線対策といった健康に関する話題も世間に氾濫している。健康を扱うテレ

注) この論文を作成するにあたり、直接、論文に掲載した分析・文章の作成を担当した益田圭が代表として筆者となり、この論文に関するすべての責任を負うこととした。しかし、この論文で扱った調査のテーマ設定、企画、調査項目の作成、分析のアイデアなどは2003年度人間関係学科2年生専門教育科目「社会調査演習」の受講者全員から生まれたものであるため、この論文は、益田圭と以下にあげる受講者43名の共同業績であり共著と考えてもらいたい。

2003年度「社会調査演習」の受講者

飯沼菜緒 伊藤加奈子 上田裕子 大浦菜緒美 岡本舞 奥本奈津美 柏田恵里 黒木菜津子 神松美香 近藤多永 高田瞳 高島弥代子 東野睦美 中田陽子 濱田恵里 平谷梨沙 藤本暖子 藤原直子 別府あゆみ 松尾嘉美 本茉莉子 山崎彩代 山下香菜 山田佳愛 石原加奈子 植田愛子 植林加奈 大北奈津子 川竹真衣 木内佳奈美 小泉あゆみ 鈴木紀子 高宮里美 徳丸綾珠 長谷川舞 原田真由 藤川亜樹 松本恵美 森久美子 山口浅瀬 山下美紀 山野祐子 吉川雅美

び番組や雑誌、健康食品やサプリメントなど、美容、健康、食生活に関する興味も、学生たちの中では大きなものである。こうした状況から、受講生たちが同世代の人々の「ダイエットと食事と健康に関する意識」が調査テーマとして選ばれたのであろう。

方 法

被験者

ペットに関する意識調査

相愛女子短期大学1年生68名（人間関係学科32名、栄養士コース36名）

ダイエットと食事と健康に関する意識調査

相愛女子短期大学1年生67名（人間関係学科32名、栄養士コース35名）

調査票

調査票の質問項目は、「社会調査演習」の授業において、それぞれ調査テーマごとに担当する受講生からアイデアを出し合ってもらい、それをまとめたものである。

ペットに関する意識調査

質問項目の構成としては、ペットに関する考え、ペットに対するイメージ、どのようなペットを飼いたい、ペットを選ぶ条件として重視するもの、ペットを飼うことに対する考え、その他である。

①ペットに対する考え

ペットに対する考えとして、「ペットは自分の子どものようなものだ」「飼われているペットはかわいそうだ」「ペットがいない生活は考えられない」「ペットを欲しがると人の気持ちが分からない」「ペットは人間にとって必要なものだ」「ペットは家族の一員だ」「ペットは人間の最高の友達だ」「ペットを好きな人に悪い人はいない」「ペットにお墓を買ってやるのは当然だ」「ペットは人間と同等だ」「ペットのためなら何でもしてあげたい」という11項目に「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」「どちらでもない」「ややそう思う」「非常にそう思う」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目にそう思うということを示している。

②ペットに対するイメージ

ペットに対するイメージは15対の形容詞対を使い、SD法で測定した。使用した形容詞対は「暗い—明るい」「楽しくない—楽しい」「親しみにくい—親しみやすい」「不潔な—清潔な」「かわいくない—かわいい」「小さい—大きい」「つめたい—あたたかい」「かたい—やわらかい」「格好悪い—格好いい」「落ち着かない—落ち着く」「役に立たない—役に立つ」「くさい—くさくない」「うるさい—静かな」「こわい—こわくない」「賢くない—賢い」である。評

定には5ポイントスケールを用いた。

③どのようなペットが飼いたいのか

どのようなペットが飼いたいのかについては、「犬」「猫」「ハムスター」「リス」「ウサギ」「サル」「フェレット」「その他のほ乳類（モルモットなど）」「鳥類（小鳥・ニワトリ・オオムなど）」「は虫類（トカゲ・ヘビ・カメ・ワニなど）」「両生類（カエルなど）」「魚類（金魚・熱帯魚など）」「昆虫」「クラゲ」の14項目に対して、「絶対飼いたくない」「あまり飼いたくない」「どちらでもない」「やや飼いたい」「ぜひ飼いたい」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目に対して飼いたいということを示している。

④ペットを選ぶ条件として重視するもの

ペットを選ぶときの条件として重視するものとして、「価格」「珍しさ」「大きさ」「飼いやすさ」「室内で飼えるか」「寿命の長さ」「雑種かどうか」「賢さ」「慣れやすさ」「自分との相性」の10項目に対して、「まったく重視しない」「あまり重視しない」「どちらでもない」「やや重視する」「非常に重視する」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目を重視するというを示している。

⑤ペットを飼うことに対する考え

ペットを飼うことに対する考えとして、「ペットを飼うと手間がかかる」「ペットがいると心が癒される」「ペットがいると自分の時間が犠牲になる」「ペットを飼うとお金がかかる」「ペットがいれば寂しくない」「ペットは命の大切さを教えてくれる」「ペットを飼うとストレスがたまる」「ペットがいると世話が大変だ」「ペットはいやなことを忘れさせてくれる」「ペットがいると心の支えになる」「ペットを飼うことは子どもの教育にも良い」「ペットがいるとリラックスできる」「ペットを飼うと生活が豊かになる」「ペットがいるとやりたいことができない」という14項目に、「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」「どちらでもない」「ややそう思う」「非常にそう思う」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目にそう思うということを示している。

⑥その他

その他として、兄弟・姉妹がいるかを「いる」「いない」の2件法で、現在の住居形態を「一戸建て」か「マンション」の2件法で、現在一人暮らしかを「はい」「いいえ」の2件法で、ペットを飼った経験を「はい」「いいえ」の2件法で質問し、ペットを飼った経験があると回答した人にはどんなペットを飼ったかを自由記述の形で質問した。

ダイエットと食事と健康に関する意識調査

質問項目の構成としては、ダイエットに関する考え、やってみたいダイエット法、普段の食事がどのようなものか、女性の魅力にとって重要なもの、自分自身の健康に対する考え、その他である。

①ダイエットに関する考え

ダイエットに対する考えとして、「ダイエットは健康に良い」「ダイエットをすると美しくなる」「ダイエットは誰でもやっている」「ダイエットするとかわいい服が着れる」「ダイエットすると自分に自信が持てる」「ダイエットは苦しいものである」「ダイエットは異性のためにする」「ダイエットすると生活が楽しくなる」「ダイエットは自分自身のためにする」「ダイエットをしたい」「ダイエットはその人の内面も変える」「ダイエットは身体によくない」の12項目に、「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」「どちらでもない」「ややそう思う」「非常にそう思う」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目にそう思うということを示している。

②やってみたいダイエット法

やってみたいダイエット法として、「食事制限によるダイエット」「運動によるダイエット」「サプリメントによるダイエット」「薬によるダイエット」「ダイエット器具によるダイエット」「絶食によるダイエット」「エステによるダイエット」「ダイエット食品によるダイエット」「つぼ療法によるダイエット」「規則正しい生活によるダイエット」「バランスの良い食事によるダイエット」の12項目に対して、「まったくやってみたくない」「あまりやってみたくない」「どちらでもない」「やややってみたい」「ぜひやってみたい」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目をやってみたいということを示している。

③普段の食事がどのようなものか

普段の食事がどのようなものかについて、「朝ご飯を毎日必ず食べている」「好き嫌いがない」「野菜をたくさん食べている」「油ものをひかえている」「間食をよくする」「カロリーを計算して食べている」「3食必ず食べている」「ファーストフードをよく利用する」「バランスの良い食事をしている」「甘いものをひかえている」の10項目に対して、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらでもない」「ややあてはまる」「ひじょうにあてはまる」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目があてはまるということを示している。

④女性の魅力にとって重要なもの

女性の魅力としてどのようなものが重要であると考えているかについて、「性格」「顔」「スタイル」「趣味の広さ」「仕事ができる」「服装のセンス」「経済力」「誠実さ」「笑いのセンス」「学歴」「家事ができる」「健康」の12項目に対して、「まったく重要でない」「あまり重要でない」「どちらでもない」「やや重要である」「非常に重要である」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目を重要であると考えていることを示している。

⑤自分自身の健康に対する考え

自分自身の健康に対する考えとして、「健康について関心がある」「健康のために運動をし

ている」「自分は健康である」「10年後も健康でいられる自信がある」「健康のために食事に気をつかっている」「健康のため身体を鍛えている」「健康になりたい」「健康より美容の方が重要である」「今はまだ健康に気を使う必要はない」「健康よりも優先すべきことがある」の10項目に対して、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらでもない」「ややあてはまる」「ひじょうにあてはまる」の5ポイントスケールで回答するものとした。結果では数値が高いほどその項目があてはまるということを示している。

⑥その他

その他として、恋人がいるか、好きな人がいるかの2項目を「いる」「いない」の2件法で、現在一人暮らしかと、ダイエットの経験があるかを「はい」「いいえ」の2件法で質問し、ダイエットの経験があると回答した人にはどんなダイエットだったかを自由記述の形で質問した。

手続き

ペットに関する意識調査、ダイエットと食事と健康に関する意識調査とも、被験者は授業中に調査への協力を依頼され、質問紙が配布され、被験者は質問票に回答した。なお、調査票の表紙には、調査協力への依頼と、調査が統計的に集計され、個々人の回答が問題にされることがないことが説明された。

結 果

ペットに関する意識調査

ここでは、ペットの飼育経験によるペットへの意識の違いについて検討していく。そのため、飼育経験によるペットに対する考えの違いを図1に示し、ペットの飼育経験の有無によってペットに対する考えが異なるかを調べるために1要因の分散分析を行い、その結果を表1に示した。

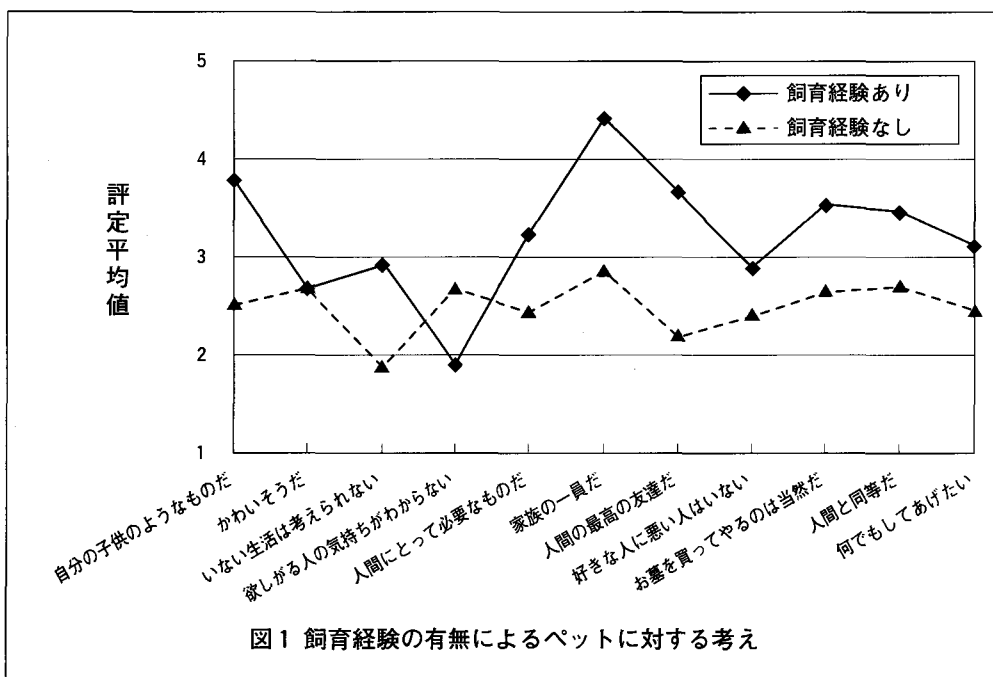


表1 飼育経験によるペットに対する考えの違い

	飼育経験あり			飼育経験あり			F値	
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差		
自分の子供のようなものだ	52	3.7	1.23	17	2.5	1.23	12.65	***
かわいそうだ	51	2.6	1.08	17	2.6	1.06	0.00	
いない生活は考えられない	52	2.9	1.49	17	1.8	0.90	8.52	***
欲しがると人の気持ちがわからない	52	1.8	1.02	17	2.6	1.17	7.38	***
人間にとって必要なものだ	52	3.2	1.17	17	2.5	1.33	4.33	*
家族の一員だ	52	4.4	0.87	17	2.8	1.51	29.87	***
人間の最高の友達だ	52	3.6	1.17	17	2.2	1.39	16.13	***
好きな人に悪い人はいない	52	2.8	1.11	17	2.5	1.12	1.05	
お墓を買ってやるのは当然だ	52	3.4	1.09	17	2.8	1.35	4.38	*
人間と同等だ	52	3.4	1.19	17	2.8	1.39	3.39	
何でもしてあげたい	52	3.1	1.15	17	2.4	1.18	4.23	*

*p<.05 ***p<.01

ペットに対する考えは、過去や現在のペットの飼育経験によって大きく異なり、「ペットは自分の子どものようなものだ」(F(1,67)=12.65, p<.01)、「ペットがいない生活は考えられない」(F(1,67)=8.52, p<.01)、「ペットは人間にとって必要なものだ」(F(1,67)=4.33, p<.05)、「ペットは家族の一員だ」(F(1,67)=29.87, p<.01)、「ペットは人間の最高の友達だ」(F(1,67)=16.13, p<.01)、「ペットにお墓を買ってやるのは当然だ」(F(1,67)=4.38, p<.05)、「ペットのためなら

何でもしてあげたい」(F(1,67)=4.23, p<.05)の7項目では、いずれもペットの飼育経験がある人は、飼育経験がない人に比べて、そう思う度合いが高い。一方、「ペットを欲しがる人の気持ちが分からない」(F(1,67)=7.38, p<.01)の項目では、ペットの飼育経験がない人の方が人よりもそう思うという度合いが高い。

つぎに、飼育経験の有無によってペットを飼うことに対する考えがどのように違うかを図2に示し、ペットの飼育経験の有無によってペットを飼うことに対する考えが異なるかを調べるために1要因の分散分析を行い、その結果を表2に示した。

ペットを飼うことに対する考えもペットに対する考えと同様に、過去や現在のペットの飼育経験によって大きく異なっている。「ペットがいると心が癒される」(F(1,66)=15.38, p<.01)、「ペットがいれば寂しくない」(F(1,67)=7.06, p<.01)、「ペットは命の大切さを教えてくれる」(F(1,67)=6.22, p<.05)、「ペットはいやなことを忘れさせてくれる」(F(1,67)=8.01, p<.01)、「ペットがいると心の支えになる」(F(1,67)=17.25, p<.01)、「ペットがいるとリラックスできる」(F(1,67)=19.26, p<.01)、「ペットを飼うと生活が豊かになる」(F(1,67)=18.78, p<.01)というペットを飼うことを積極的に評価する7項目では、ペットを飼った経験がある人の方が人よりも、そう思うという度合いが高い。一方、「ペットを飼うとお金がかかる」(F(1,67)=7.12, p<.01)、「ペットを飼うとストレスがたまる」(F(1,67)=6.56, p<.05)、「ペットがいると世話が大変だ」(F(1,67)=5.04, p<.05)といったペットを飼うことに対する敷居の高さを表している3項目に対しては、ペットを飼ったことのない人の方が、ペットを飼ったことがある人よりもそう思うという度合いが高い。

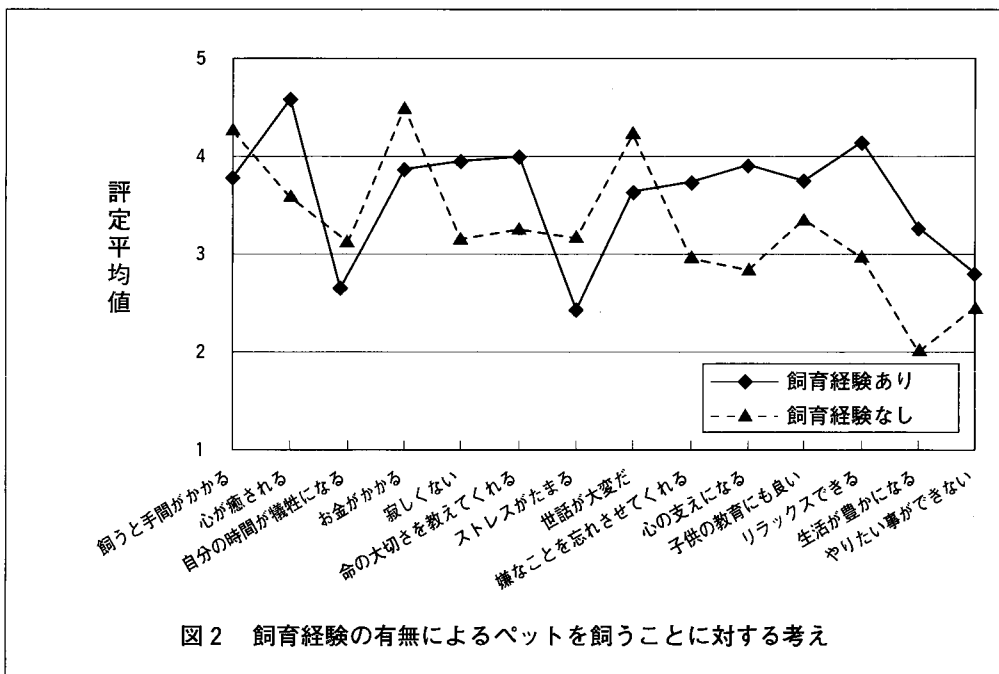


表2 飼育経験の有無によるペットを飼うことに対する考えの違い

	飼育経験あり			飼育経験あり			F値	
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差		
飼うと手間がかかる	52	3.8	0.96	17	4.3	0.85	3.18	
心が癒される	51	4.5	0.64	17	3.6	1.17	15.38	***
自分の時間が犠牲になる	52	2.6	1.00	17	3.1	0.99	3.78	
お金がかかる	52	3.8	0.89	17	4.5	0.62	7.12	***
寂しくない	52	3.9	0.96	17	3.2	1.24	7.06	***
命の大切さを教えてくれる	52	4.0	0.98	17	3.3	1.21	6.22	*
ストレスがたまる	52	2.3	1.19	17	3.2	1.07	6.56	*
世話が大変だ	52	3.6	1.04	17	4.2	0.64	5.04	*
嫌なことを忘れさせてくれる	52	3.7	0.89	17	2.9	1.20	8.01	***
心の支えになる	52	3.9	0.90	17	2.8	1.07	17.25	***
子供の教育にも良い	52	3.8	1.08	17	3.4	1.12	1.38	
リラックスできる	52	4.1	0.85	17	2.9	1.20	19.26	***
生活が豊かになる	52	3.2	1.06	17	2.0	0.87	18.78	***
やりたい事ができない	52	2.8	1.00	17	3.2	0.97	2.81	

*p<0.5 ***p<.01

ダイエットと食事と健康に関する意識調査

ここでは、被験者が人間関係学科と栄養士コースの学生であるということから、学科別にダイエットに対する考え、普段の食事、健康についての意識がどのように違うかについて検討していく。これは、栄養士コースは、栄養や健康について専門的に勉強していくことを選択した学生であり、被験者のサンプル特性が表れると考えられるためである。

まず、ダイエットに対する考えについて検討するために、学科別による違いを図3に図示した。

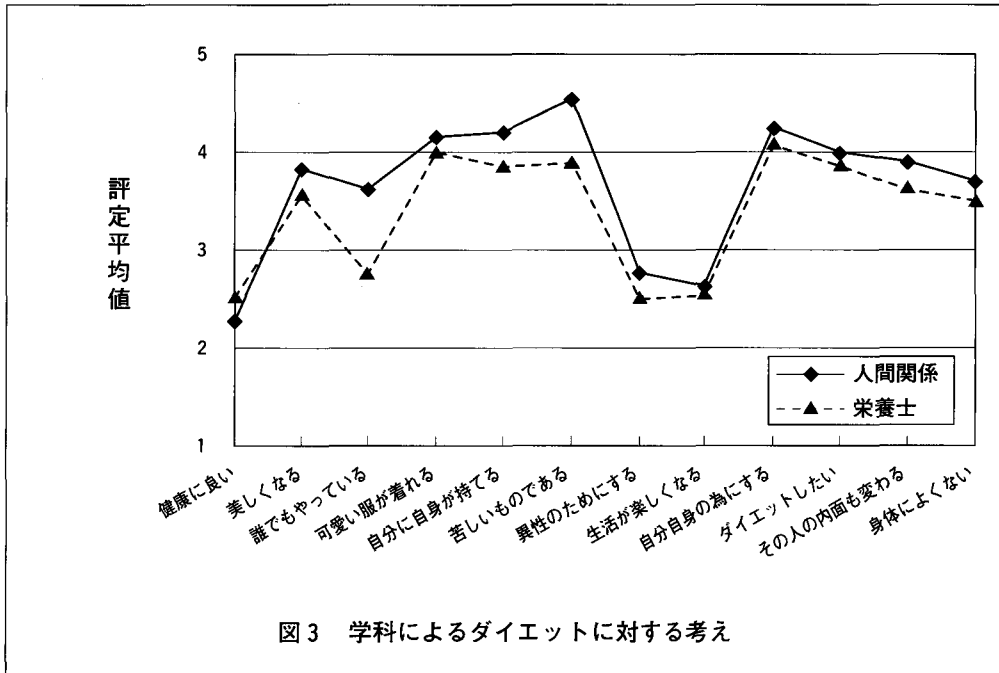


図3より、ほとんどの項目でダイエットに対する考え方には、学科による違いがないことが分かる。ダイエットに対しては、学生たちが自分自身を美しくし、かわいい服が着れるようになり、自分自身に自信がつくものであると考える一方で、健康や身体にはあまり良くないものだと考えていることがわかる。

表3は、学科によってダイエットに対する考え方の違いをあるかどうかを1要因の分散分析で確かめた結果であるが、学科間で有意な差があったのは、「ダイエットは誰でもやっている」(F(1,65)=10.82, p<.01)と、「ダイエットは苦しいものである」(F(1,65)=4.13, p<.05)の2項目だけで、どちらも人間関係学科の学生の方がそう思うという度合いが高かった。

つぎに、普段の食事について学科別の回答を図4に示した。普段の食事についても人間関係学科と栄養士コースで大きな回答の違いは見受けられなかった。特徴的であったのは、朝ご飯を毎日必ず食べるという項目にあてはまるとしている度合いがかなり高く、その一方で、カロリーを計算して食事をするという項目に対しては、あてはまるという度合いが非常に低かった。

表3 学科によるダイエットに対する考えの違い

	人間関係			栄養士			F値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
健康に良い	32	2.4	0.79	35	2.6	1.03	1.25
美しくなる	32	3.7	1.00	35	3.5	1.24	0.69
誰でもやっている	32	3.6	0.98	35	2.8	1.06	10.82 ***
可愛い服が着れる	32	4.1	1.07	35	4.1	1.08	0.07
自分に自身が持てる	32	4.2	1.02	35	3.8	1.28	1.57
苦しいものである	32	4.4	0.83	35	3.8	1.29	4.13 *
異性のためにする	32	2.8	1.29	35	2.6	1.22	0.47
生活が楽しくなる	32	2.7	1.25	34	2.6	1.16	0.12
自分自身の為にする	32	4.3	0.95	35	4.1	1.13	0.28
ダイエットしたい	32	4.0	1.30	35	3.8	1.50	0.25
その人の内面も変わる	31	3.9	1.18	35	3.5	1.15	1.55
身体によくない	32	3.7	1.12	35	3.4	1.20	0.83

*p<.05 ***p<.01

また、学科による違いを検討するために、1要因の分散分析を行い、その結果を表4に示した。

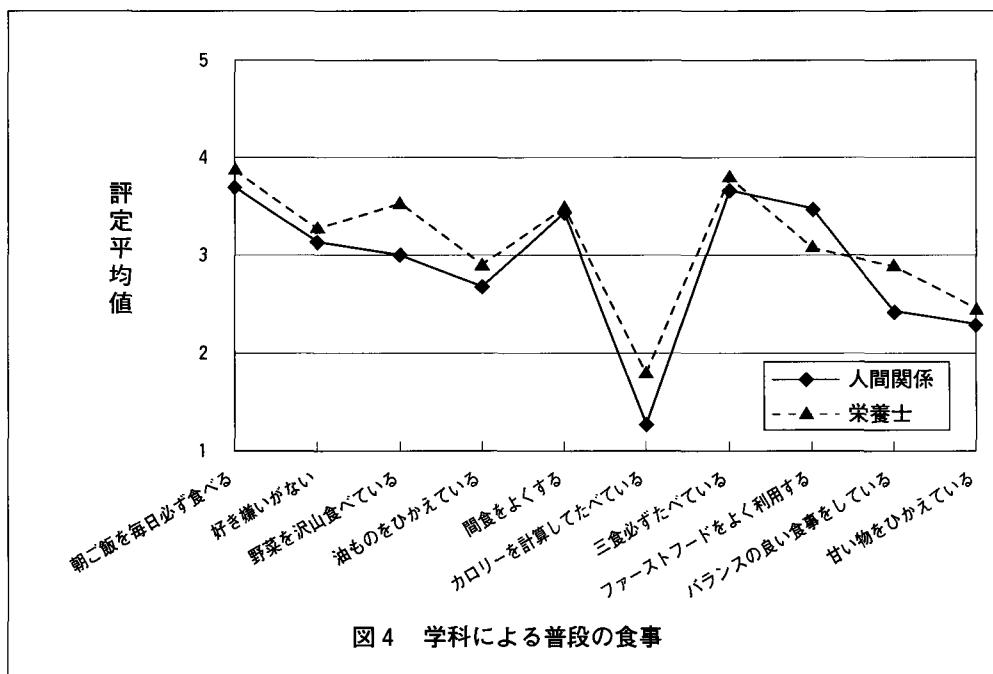


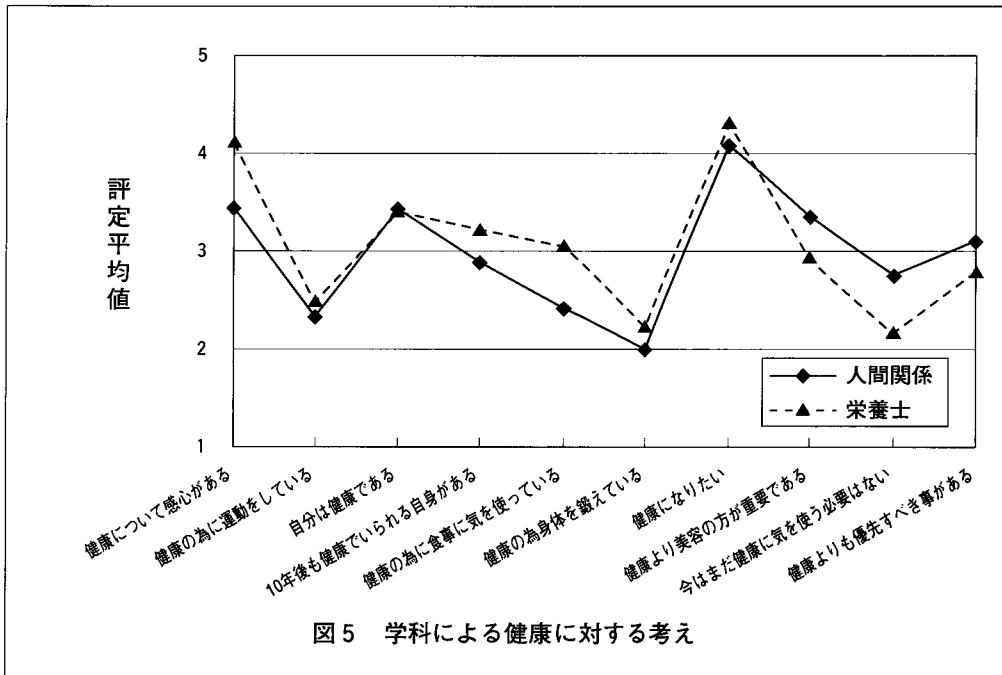
表4 学科による普段の食事の違い

	人間関係			栄養士			F値
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
朝ご飯を毎日必ず食べる	32	3.6	1.39	35	3.9	1.44	0.45
好き嫌いが無い	31	3.1	1.40	35	3.2	1.52	0.13
野菜を沢山食べている	32	3.0	1.06	35	3.6	1.17	4.32 *
油ものをひかえている	32	2.6	0.83	35	2.9	0.89	1.88
間食をよくする	32	3.4	1.16	35	3.5	1.24	0.13
カロリーを計算して食べている	32	1.3	0.69	35	1.8	1.12	5.00 *
三食必ず食べている	32	3.6	1.41	35	3.7	1.60	0.10
ファーストフードをよく利用する	32	3.5	1.16	35	3.1	0.90	2.32
バランスの良い食事をしている	32	2.5	0.95	35	2.9	0.98	3.07
甘い物をひかえている	32	2.3	1.11	35	2.6	1.17	1.08

*p<.05

その結果、学科による違いがあったのは、「野菜をたくさん食べている」(F(1,65)=4.32, p<.05)と、「カロリーを計算して食べている」(F(1,65)=5.00, p<.05)の2項目だけであり、いずれも栄養士コースの学生の方があてはまるとした割合が高かった。

つぎに、健康に対する考えについて検討するために、学科による健康に対する考えの結果を図5に示した。



健康に対する考えについても学科による大きな意識の違いは見られず、だいたい同じような傾向を示している。「健康について関心がある」「健康になりたい」という意識は強いものの、そのために具体的な行動をとっているかということ、あまりそうでもないようである。

さらに学科による違いを詳しく検討するために1要因の分散分析を行い、その結果を表5に示した。

表5 学科による健康に対する考えの違い

	人間関係			栄養士			F値	
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差		
健康について感心がある	32	3.5	1.19	35	4.1	0.87	6.51	*
健康の為に運動をしている	32	2.3	1.06	35	2.5	1.09	0.30	
自分は健康である	32	3.5	1.19	35	3.5	1.17	0.00	
10年後も健康でいられる自身がある	32	2.9	1.33	35	3.3	1.29	1.20	
健康の為に食事に気を使っている	32	2.4	1.19	35	3.0	1.04	5.22	*
健康の為に身体を鍛えている	31	2.0	1.14	35	2.3	1.10	1.33	
健康になりたい	32	4.1	1.22	35	4.3	0.96	0.89	
健康より美容の方が重要である	32	3.4	1.13	35	2.9	1.35	2.30	
今はまだ健康に気を使う必要はない	32	2.8	1.18	35	2.2	0.92	5.58	*
健康よりも優先すべき事がある	32	3.1	1.26	35	2.7	1.28	2.00	

*p<.05

学科による違いが見られたのは3項目であった。「健康について関心がある」(F(1,65)=6.51, p<0.5)、「健康のために食事に気をつけている」(F(1,65)=5.22, p<0.5)の2項目では、栄養士コースの学生の方が人間関係学科の学生よりもあてはまると答えた割合が高く、「今はまだ健康に気を使う必要がない」(F(1,65)=5.58, p<0.5)では、人間関係学科の学生の方が、あてはまると答えた割合が高かった。こうした学科による違いは、やはり栄養士コースの学生が健康、食物といったことに関心が高く、また、授業の中でも健康、食物について考える機会が多いことを反映しているためであろう。

考 察

ここまで、ペットに対する意識調査と、ダイエットと食事と健康に対する意識調査の結果の一部を検討してきた。

ペットに対する意識は、やはり、ペットを過去、現在に飼った経験があるかが大きく意識と関連しているようである。とくにペットを飼うことのコストに関する意識では、飼育経験がないと、「ペットを飼うことは大変だ」という敷居の高さを持つようである。一方、これまでにペットを飼った経験があると、ペットを飼うことのコストよりも、ペットを飼うことによって得られる、癒しや親しみといったさまざまな利点を強く意識することに栄養を与えて

いるようである。これらの結果からも、ペットについては実際に飼って世話をしたり、一緒に時間を過ごすことが、コストではなく、喜びの意識を強めるということであろうか。

また、ダイエットと食事と健康に対する意識では、思ったほどは、人間関係学科と栄養士コースで大きな意識の違いは見られなかった。しかし、そうした中でもやはり栄養士コースの学生は、食物や健康についての意識が高く、一方人間関係学科は、「ダイエットは誰でもやっている」という項目の高い評定平均値からも推測されるように、自分を取り巻く人々や世間一般の動向に興味が向いているのかも知れない。

今回の意識調査の分析に関しては、まださまざまな分析の可能性が考えられる。しかし、今回は2つの意識調査を扱うこともあり、非常に限定して分析を行った。そのため、この2つの意識調査から得られる結果で、報告できることが非常に限られてしまったことは、論文の執筆を担当した益田圭の責任である。「社会調査演習」受講生たちはレポートの中で、それぞれさまざまな観点から多彩な分析を試みていたことを付け加えておきたい。

最後に今回の調査の実施にあたり、調査票に回答してくれた学生の方、その他様々な形で協力をいただいたすべての方に感謝を述べたい。

参考文献

堀洋道・山本真理子・松井豊編 心理尺度ファイル 人間と社会を測る 垣内出版

竹内宏編 アンケート調査年鑑2000年度版 並木書房

竹内宏編 アンケート調査年鑑2001年度版 並木書房